



### 3. 活動内容

本校は、海拔0メートル地帯に盛り土をし、その上に立地している。内海とはいえ、この海に隣接した学校の状況に対し、生徒はもとより、保護者や地域の方も大きな危機感を抱いている。また、本校校舎は、東日本大震災以来、「津波避難ビル」にも指定されている。そのため、子どもたちの命を守るため、「自分の命は自分で守る」を合言葉に、南海トラフ巨大地震を想定したさまざまな方策を行っている。また、道徳や生徒の活動を中心に、命の月間を設け、「自分の命・他者の命」について考える活動にも取り組んでいる。

#### (1) 安全・安心な町づくりや学校づくりを目指した防災学習

避難訓練の第1回(4/11)は、火災の想定で、避難経路の確認をし、校庭へ避難した後は、各通学団に分かれ、教師もついて通学路の安全点検を行った。2回目(9/1)は、大地震が起き、大津波が押し寄せることを想定して、校舎の3階と4階へ全員が避難する訓練を行っている。3階は3年生の教室、4階は理科室などの特別教室で1、2年生が慌てずに避難できるように日ごろから避難場所としての表示を各教室にしている。



3回目(10/3)は、大地震から大津波が押し寄せることの想定は第2回と変わらないが、大地震で校舎がダメージを受け、3・4階に避難ができず、近くの高台にある地域の保健施設「ほいっぷ」への避難を計画し、行っている。この訓練は地域の保育園・小学校(本校と同じような立地で川の近くにある)と連携し、合同で避難するようにしている。このときに、中学生が、小学生や保育園児にどのようにかかわることができるのかを模索している。ただ、本年度は、残念ながら台風接近の暴風警報が出たためにこの訓練は実施できなかった。4回目(11/4)は、生徒に日時を知らせず、普段の生活の中で突然起こる災害として、シェイクアウト訓練を行った。防災に関する学級活動として、3年生では、防災についての調べ学習を行いポスターセッション形式で発表会を行った。防災そのものに関すること、防災への備え、防災を最小限にすることなど、防災への意識を高める取り組みをおこなった。

#### (2) 「いのちの月間」を中心とした命の学習(人権学習)

6月を「いのちの月間」として、朝の会や学活、道徳などの様々な場面で「命」をテーマとした学習の場を設定している。全校集会「いのちの日の集会」(6/16)では、町別生徒会(通学団)ごとに自分たちの通る場所へ出かけ、危険な場所を全体に紹介した。これによって、被災時だけではなく、日常の生活から安全に暮らす意識を高めることができている。

また、「大切ないのち 私もあなたもみんな大切」を合言葉に、6月に10日間ほど、短い詩から新聞の投稿まで、さまざまな分野から見つけた、いのちに関する読み物を生徒に紹介した。教室に掲示し、朝の会や帰りの会、学活や道徳の時間など、紹介する時間は担任に任せ、生徒がいのちについて考える時間を確保した。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）